

然別湖に遊んで

小石 樽雄



八月の上旬涼を求めて然別湖に遊んだ。支笏湖しか知らない私にとつて心のアルバムの一駒となることを期待しつつ。

帯広から松並木の音更街道を一直線に走り音更鹿追の市街を飛んで二時間ばかり車はようやく山道に入るころ暑さは最高を憶える。

一つひがしの日本の名所

然別湖はよいところ

白雲岳や展望山

夫婦ヌプリに抱かれて

沼にはイワナがタントタント

エンジンのうなりを気にしつつも

車は熊の沢からヌプカウシヌプリ(

夫婦山)の山腹を羊腸の如くうねり

上つて展望台につく、十勝六百里

の大平原を俯瞰し雲畑遙かに帯広市

を遠望することができ音更、土幌、

糠内の市街を始め種馬場大防風林を

眼下に見下せる雄大無比な展望美に

しばし疲れを忘れただみとれるばか

り。展望台を経て車は降り始め途中扇ヶ原、千疊崩れを過ぎ駒止湖（ポントウ）を右にみる。ここはもと噴火口であつたとか。周囲九町余りの小沼で従来山椒魚のみしか棲息しなかつたと昭和二十五年から三カ年にわたり山田温泉主山田角太氏が一念発起オシヨロコマを移殖本年に入り始めてその蕃殖を確認したという。小沼から十余町原始林を縫つて湖岸につく。周囲に遠望山、展望山、白雲岳、ペトウトル岳等の峻嶺奇峰に囲まれ海拔七九七米の湖面は碧色によんどんで眼前にひろがる。光風館前にて車を降り地上の人となる。昭和七年建てられたこの館も同二十三年火災により今は木造となり先頃の地震の影響を受け熱湯も微かとなり現在釜によつて面影を残しているのみ。

土曜のこととか已に貸切バスにて先客多くあるいは湖上にボートを浮かすの散々伍々木蔭に涼を求めて語りあうもの自然の息吹を吸う人の風情も湖の美しさに映えて印象的である。車をすてた私は目的地山田温泉に行くため遊覧船つばめ丸に乗り移る。

奇岩その姿を曝し千古の原始林に白雲去来し將に山紫水明風光絶佳の秘境である。途中一つの浮島を通る弁財天を祀り弁天島という。古木生い茂り全体に佳麗なる風趣を与えている。湖上を走つて約十五分対岸舟

着場の上る。ここより約十一町余りでヤンベツ川畔の温泉宿につく。昭和七年建つたという山田温泉も戦時中軍隊の宿舍となつたり先の十勝沖地震によりひどい被害を受け今は荒れ果て俳人青木郭公筆による大書表札もわびし気である。総建坪一五〇坪二階造りの宿もわずかに四、五部屋のみ使用し得るに過ぎない。オシヨロコマの孵化室を実施責任者である宿主山田氏に案内してもらう。ヤンベツ川水を引水した平水式の孵化室に四本の間槽を配し一五〇万粒の設備を有するこも冬期水温低下によりなやまされるため側に湧出する温泉水との混用を昨年試みたところ死卵と湯垢の発生により期待した結果を得られなかつたとのこと、とあり斯業に一意専心寧日なき山田氏の努力には敬服するばかり。

野天、内の両風呂につかり溪流を耳にして散を求めらる頃夏の日も静かに山の端に沈む。ランプの深い灯が寂漠たる幽谷にもれ流れて夜とない。

（十勝支場 技官）